

県人事委員会の太田委員を昨年度と同様の日程でお長は現時点での回答とし、こなかったとした上で、現在、勧告・報告の基礎資料人事院において各人事委員となる職種別民間実態調査会が提出した調査データの

7月15日、兵教組は県職労とともに、県人事委員会へ賃金・労働条件に関する申し入れをおこなった。冒頭、県職労大野委員長より要請書を手交し、青木書記長が趣旨説明をおこなった。引き続き、兵教組森戸書記長から、学校現場の実態をふまえ、出産・育児のための休暇制度拡充、臨時的任用・再任用教職員の処遇改善を中心に趣旨説明をおこなった。

県職労兵教組 県人事委員会に申し入れ実施

※詳細は闘争速報No.1参照

とりまとめがおこなわれており、データ提供を受けた後に精査したいと述べた。回答を受け、県職労大野委員長は9年目をむかえる独自カットの回復を強くもとめるとともに、扶養手当の見直し・検討については民間実態をふまえた対応をもとめた。

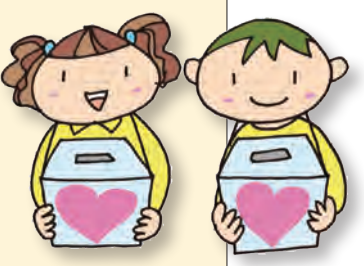
「熊本地震」災害救援カンパ

兵教組組合員の皆さんからいただいた「熊本地震」災害救援カンパが、総額6,929,396円にのぼった。日教組・連合を通じて、子ども・教職員の救済と学校教育の早期復興にあてられる。95年の阪神・淡路大震災のときには、熊本高教組から44人の組合員が神戸市須磨区の若宮小学校に入り、避難所での業務にあたっていた。

熊本高教組からのメッセージ概要

阪神・淡路大震災から21年後の熊本の地にも、同じ（熊本から神戸に駆けつけた）ように全国の教職員組合から熊本市内6か所の避難所支援にボランティアとして駆けつけていただき、6月2日から約1か月間にわたり、のべ160名の方々に協力いただいた。また、いち早く熊本地震後にすぐに見舞金を送っていただいたり、自分たちの時の経験を伝えるにはるばる駆けつけていただいたのは、新潟、岩手、兵庫などの地震被害を受けた各教職員組合であった。自分たちが助けてもらった恩を忘れずに、他の被災地に対して支援で返すという姿勢に感銘を覚えた。

全国連帯の仲間の心強さを感じながら、一歩ずつ前へ進んでいくエネルギーをもらっています。



協力ありがとうございました

ゆたかな教育の創造をめざす 兵庫県民会議(教育創造県民会議) 第27回 総会



7月23日、兵庫県学校厚生会館で「ゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議」(略称・教育創造県民会議) 第27回総会が開かれ、133人が参加した。経過が報告され、今後の活動方針や15年度決算16年度予算、役員を選出について協議し、承認された。その後、京都精華大学の住友剛さんより「家族を頼れない子どもたちの自立」子どもの権利条約の視点で考える」をテーマに講演があった。(要旨は後日掲載予定)

総会では、子どもたちをとりまく現状と課題にもとづいて活動方針が提起され、今後の具体的な活動について協議された。子どもたちをとりまく現状をもとに次の8項目が提起された。①教育格差の解消を、②地域から子育て・子育て支援システムを、③子どもたちに「ゆたかな自然体験・社会体験・生活体験」を、④「学びたいことが学べる」高等学校に、⑤阪神・淡路大震災20年の検証を生かした教育の創造

を、⑥地域・学校が連携をはかり、人権教育の推進を、⑦「勤労観・職業観を育む教育(労働教育)」の充実と「学びの場」の多様化を、⑧教育の地方分権を。具体的な活動については、教育の地方分権を具体化するために「教育創造県民会議」の地域組織である「教育創造地域(地区)会議」の県内全地域での設立と活動の活性化をはかることや、「地域の子育て」「地域の教育改革」等について、保護者・地域の方々・教職員との意見交換をすすめること等について協議・決定された。

また、国際化・情報化時代と生涯学習社会にふさわしい公教育の充実と人権・平和・社会的公正を尊重するゆたかな教育の創造と発展を目的としている。そのため、学校教育と地域・

教育の地方分権をすすめ、地域に根ざした教育要求・教育改革を

教育創造県民会議とは

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 泉 雄一郎
編集人 川原 芳和
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)
2016/8・1
No. 1910

家庭版

「わたしのランドセル」



福崎町立福崎小学校
五年 吉田 愛菜
(こどもの詩と絵 第36集より)

年金共済で、公的年金にプラスし ゆとりあるセカンドライフをめざしませんか？

現職中に積立

月々積立

月額5,000円以上1,000円単位で積み立てられます。
※ご加入後に増額・減額もできます。

+

ボーナス積立

10万円以上1万円単位で積み立てられます。

任意積立

※ボーナス積立、任意積立は取崩し（一部解約）ができます

ご退職時に受取年金を決定

- 年金原資（積立金）が受け取りたい年金に足りない場合は、一時払掛金で原資を積み増しすることができます。
- 年金原資（積立金）が受け取りたい年金より多い場合は、超過分を一時金でお支払いします。

現職の方は無理のない金額でコツコツ。退職の方は退職金などのまとまった資金で！



ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧ください。

あんしん むすぶ 教職員共済

資料請求・お問い合わせは▶

教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所

〒650-0004
神戸市中央区中山手通4丁目
10-8 ラッセホール4F

電話 (078) 221-9730
FAX (078) 221-1199

人権教育ひょうご 第19回総会 記念講演

声をひろいあげる ― 聞き書きで記録する地域の記憶

岸政彦さん (龍谷大学社会学部教授)

聞き書きは地域の人とつながるきつかけになる

5月28日、ラッセホールで「人権教育ひょうご」第19回総会が開かれ、兵教組および各賛同団体から78人が参加した。

経過や15年度決算、昨年10月におこなわれた人権教育ひょうご主催の「スタディツアーin岡山」(『教育ひょうご』15年11月1日号参照)の様子等が報告され、16年度の活動方針や役員選出等が協議された。

その後、龍谷大学社会学部教授の岸政彦さんより「声をひろいあげる ― 聞き書きで記録する地域の記憶」をテーマに記念講演があった。本紙に講演内容の要旨を掲載する。

生い立ちから聞いて、そのまま文字化

都市型と言われる部落で実態調査をしたり、沖縄から一旦本土に就職してから、Uターンで戻って来た方や、沖縄の公務員や教員の方々に聞き取りをしたりしてきた。沖縄では20年ほど調査をしている。今後ライフワークにしようと思っているのは、沖縄戦を

沖縄戦経験者のやさしさにふれた学生

私の授業で調査実習というものがある。沖縄にも連れて行くという前提なので、琉球王国に始まって沖縄戦、少女暴行事件、基地問題等、沖縄の歴史を4月から叩き込んで、インタビューも練習してもらう。去年こういうことがあった。学生には、沖縄の80、90歳の方から沖縄戦のことだけじゃなくて戦後の今に至るまでの生い立ちを全部聞かせる。孫、曾孫みたいな学生が行くので、ものすごく歓迎してくれる。両手にいっぱいお菓子やお土産を持たせてもらい、次の家に行ったらご飯が並んでいることもある。那覇で4日間ほどの合宿をして、最後の夜に打ち上げをしたときに、ひとりの男子が号泣し

はじめた。



沖縄・被差別部落・生活史・社会調査方法を研究テーマとする岸さん。

聞き取りをしていると沖縄戦の話が中心になって、すごく残酷な話もある。例えば、自分の父親が目の前で迫撃砲の直撃を受け、血や骨を全身に浴びたというような話がいっぱい出てくる。そういう話を聞くのだから、そこでご飯がいつぱい

生活史というものは、個人の語りにもとづいた社会調査だ。ある社会問題や歴史的事件の当事者や関係者によって語られた人生の経験を、マクロな歴史と社会構造に結びつけて、そこに隠された合理性を理解し、記述することが生活史調査の目的である。合理性とは要するに事情があるということだ。あらゆる人には事情、背景、人生があるんだ

ということを理解することが肝要である。歴史学では生活史のことをオーラルヒストリーと言ったりする。なぜ人の語りを聞くのかというと、大きな記録や教科書的な歴史では全然わからないような個人のミクロな体験や経験、人生に、歴史や社会がすべて入っているからだ。記録や声を残せるのは強い人の声だけが残るやすい。子どもたちが教科書で読むような歴史は、織田信長が豊臣秀吉が...というような話から入る。偉人の歴史だ。一方で、身近で生きて暮らしている人たちの歴史を残そうという運動が、60年代、70年代から歴史学、社会学でも盛んになってくる。オーラルヒストリーは、まちづくりに使われている。例えば小学生が総合学習の一環で、商店街の魚屋さんにインタビューすると

「ロック魂」



太子町立石海小学校 六年 陸井 智貴

(こどもの詩と絵 第36集より)

教育現場の皆さんにお願いがある。もし可能であれば、地域で聞き書きを子どもたちと一緒にしていただきたい。私も学生を連れて行って活動しているが、皆さんのところでも子どもを連れて、地域の人の語りを聞いて残せたらいいと思う。今聞いて、今記録したものを、例えば500年先の人に残す。1000年先の人にむけて残したいという気持ちで、特に沖縄では聞き取りを続けている。

川上八郎
(伊丹市議員)

岩下あきら
(西宮市議員)

さきもと祐治
(前神戸市議員
須磨区)

みずおか俊一
(前参議院議員)

古田ひろあき
(三木市議員)

ひわだ充
(三田市議員)

つだ加代子
(川西市議員)

北野さと子
(宝塚市議員)

おくの尚美
(民主党兵庫
第7区総支部幹事)

もりかみ祐治
(南あわじ市議員)

三木浩一
(たつの市議員)

おなか利治
(明石市議員)

残暑お見舞い申し上げます。

兵政連(議員団)一同

夏休みファミリーパズル

まちがい探し

パズル制作: ひろ みよこ

右と左の絵をよく見くらべると、違っているところが10ヶ所あります。

どちらかの絵に10ヶ所赤丸を入れ、切り取ってはがきに貼って送ってください。お名前、年齢、支部名、住所(郵便番号も)を明記の上、ご応募ください。

また、本紙の感想などもお寄せください。20名様に粗品を差し上げます。

締め切り: 9月5日(消印有効)

あて先: 〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8ラッセホール4F「教育ひょうご編集部」

